

投資機関各位

持続可能な開発目標（SDGs）に逆行する日立造船に対して ESG エンゲージメント強化及び投資撤退を求める要請書

現在、日立造船株式会社（以下、日立造船）は、京都府舞鶴市においてパーム油発電所の計画・建設・運営に関与し、新たな出資者を探すなど積極的な姿勢を固持しています。パーム油の生産に関しては、これまでも熱帯林の減少、気候変動、人権労働問題など様々な ESG 課題の存在が指摘されています。

私たちは、日立造船の株主と想定される投資機関に対し、以下の理由から日立造船のパーム油発電事業に対する ESG エンゲージメントの強化を行い、一定期間に改善が見られない場合は投資撤退（ダイベストメント）を行うことを要請します。

【舞鶴市パーム油バイオマス発電所計画の概要】

事業者：舞鶴グリーン・イニシアティブス合同会社
出資元：未定（日立造船が国内大手企業の出資を調整中）
建設、運営・保守：日立造船株式会社
燃料：パーム油（パーム原油）
発電端出力：66MW 年間燃料使用量：約 12 万トン

理由 1：パーム油発電は事業リスクの高いビジネスで、日本政府はパーム油発電への規制を強めています。

2020 年 4 月、舞鶴パーム油発電所の 3 社目の出資者であった Amp 株式会社（以下、Amp）が撤退を決定し「今後、当社及び当社グループではパーム油を燃料とする発電事業の検討は行いません」と述べました。同社がパーム油発電の問題を認識して撤退を決めたことが伺えます。パーム油は経済産業省の再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）の燃料として認められていますが、バイオマス持続可能性ワーキンググループにより、その持続可能性の検討が重ねられ、燃料となるパーム油は RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）などの認証油に限られましたⁱ。既存のパーム油発電事業者の業界団体は、RSPO 認証油の安定的な調達には困難であると予測しています。さらに今後ワーキンググループでは、バイオマス燃料のライフサイクルでの温室効果ガス排出量について検討が行われる予定であり、熱帯林や泥炭地を開発して作られることもあるパーム油が、再生可能エネルギー源として適切かどうかとも問われることとなります。ガイドラインの内容は年々厳しく変更され、既存事業者にも遡及的に適用されるため、パーム油発電事業のリスクはますます高くなっています。

理由 2：パーム油発電所はパリ協定及び持続可能な開発目標（SDGs）のゴール 13（気候変動）に逆行します。

バイオマス持続可能性ワーキンググループで示された資料では、パーム油発電が排出する CO₂ は、原料となるアブラヤシ農園で熱帯泥炭地を開発した場合、石炭火力の 20 倍に至りますⁱⁱ。舞鶴市の説明資料では、日立造船の試算として当該パーム油発電の GHG 排出量は天然ガス発電の 3 分の 1 程度に抑えているとされています。しかしこの数値は根拠が

不十分で信頼性に欠けると言えます。また生産国のパーム油搾油工場では、廃液から大量のメタンガス（GHG）が放出されていることが問題視されています。よってこの計画はカーボンニュートラルの達成を目標としたパリ協定及びSDGsゴール13に逆行しています。

理由3：パーム油をバイオマス燃料として利用拡大することは熱帯林の破壊を引き起こしSDGsゴール15（陸域の生物多様性）に逆行します。

アブラヤシのプランテーション開発によって、絶滅危惧種オランウータンをはじめ多くの野生生物が生息する熱帯林が破壊されています。プランテーション開発は陸域の生物多様性損失の最大の要因と指摘されていますⁱⁱⁱ。パーム油を発電に利用拡大することは、プランテーション拡大の新規開発圧力となります^{iv}。舞鶴パーム油発電所では日本の年間パーム油輸入量61万トンの約2割を使用します。またパーム油の調達先であるGolden Agri-Resources社（GAR）を舞鶴市は優良企業としていますが、各所で問題点が指摘されています。リベリアにあるGARの子会社は、自らの方針に違反して森林破壊を引起こしたことを認めています。インドネシアでは国際人権NGOのForest Peoples Programmeが、RSPOにGARの操業について苦情を申立て、GARの15パーセント以上の土地が非法に生産活動に利用されていると指摘しています。その農園許可を巡る贈賄汚職事件により、GARは2019年にダウ・ジョーンズのアジア太平洋地域のサステイナビリティ・インデックスから外されています。また保護区を違法に開発した農園からパーム油を購入していたことなども問題視されています^v。

理由4：パーム油発電は食料と競合することが問題視されており、SDGsゴール2（飢餓の撲滅）に逆行します。

舞鶴市の発電所の計画では、「パーム油は嗜好品にしか使用されないため食用競合とはならない」との認識が示されていますが、パーム油はパンや麺類を含むあらゆる加工食品の原料として使用され、とりわけ途上国では安価な揚物などの原料として、日々の食を支える油です。世界の飢餓人口は3年連続で増加しており、2018年は推計8億2000万人が十分な食料を得ることができませんでした^{vi}。そのような国際状況において食用となるパーム油をバイオマス燃料として使用することは、価格の高騰などを引き起こし、結果途上国での食料利用と競合することが問題視されています。

理由5：パーム油発電には地域住民が断固反対しており、SDGsゴール16（平和で公正な社会の実現）に逆行しています。

舞鶴パーム油発電所計画地の周辺住民は、ほぼ全員が計画に反対であることが住民アンケートから明らかになっており^{vii}、舞鶴市も住民の合意が取れていないことを認めています^{viii}。Amp社が出資を取りやめ、舞鶴市長も「事業者が見つからないとやめざるをえない」と述べている中で、日立造船が新たな出資者を探していることは、住民の理解を得られていません。

【本件に関するお問い合わせ先】

ウータン・森と生活を考える会（担当：石崎／E-mail: contact-hutan@hutangroup.org）

「環境・持続社会」研究センター（JACSES）（担当：田辺／E-mail: tanabe@jacses.org）

本要請書には以下 8 カ国 24 団体が賛同しています。（2020 年 6 月 7 日現在）

afca（オーストラリア）

ARA（ドイツ）

Global Forest Coalition（オランダ）

国際環境 NGO FoE Japan（日本）

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン（日本）

サラワク・キャンペーン委員会（日本）

Stand.earth（アメリカ）

熱帯林行動ネットワーク JATAN（日本）

Mighty Earth（アメリカ）

F.C.Manis. マニス・ファンクラブ（日本）

一般社団法人 more trees（日本）

Partnership for Policy Integrity（アメリカ）

Biofuelwatch - UK/USA（アメリカ、イギリス）

BankTrack（オランダ）

Fridays For Future Kyoto（日本）

Fridays For Future Nasu（日本）

Fridays For Future Dazaifu（日本）

Friends of the Siberian Forests（ロシア）

Both ENDS（オランダ）

Bob Brown Foundation（オーストラリア）

認定 NPO 法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン（日本）

Leefmilieu（ベルギー）

Rivers without Boundaries International Coalition（ロシア）

The Rainforest Information Centre（オーストラリア）

ⁱ 資源エネルギー庁, 「事業計画策定ガイドライン（バイオマス発電）」, 2020-4-1

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/kaitori/dl/fit_2017/legal/guideline_biomass.pdf

ⁱⁱ 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング, 「バイオマス燃料の安定調達・持続可能性等に係る調査報告書」図表 99
https://www.meti.go.jp/meti_lib/report/H30FY/000087.pdf

ⁱⁱⁱ 環境省 (IPBES), 「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書 政策決定者向け要約 (抄訳)」, 2019

<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/ipbes/deliverables/files/spm%20jp.pdf>

^{iv} 環境省 (IPBES), 「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書 政策決定者向け要約 (抄訳)」, 2019

<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/ipbes/deliverables/files/spm%20jp.pdf>

^v THE WALL STREET JOURNAL, 「Palm Oil Sustainability Certifier to Review Indonesian Bribery Claims」, 2020-3-20

https://www.wsj.com/articles/palm-oil-sustainability-certifier-to-review-indonesian-bribery-claims-11584752501?fbclid=IwAR2eNN9q8H6QV3DPgWzr_0nGfPuuNI4MDLU15pp5dXIHSNsY2tlnYLghRgs

^{vi} UNICEF, 「世界の飢餓人口、8 億 2,000 万人以上 3 年連続の増加に国連 5 機関が警鐘」, 2019-07-05
<https://www.unicef.or.jp/news/2019/0105.html>

^{vii} 毎日新聞, 「パーム油発電所 ほぼ全住民「建設反対」 舞鶴・喜多地区自治会、市長に中止訴え／京都」, 2020-04-11

^{viii} 舞鶴市, 「喜多地区パーム油バイオマス発電所立地計画 住民説明会【議事要旨】」

<https://www.city.maizuru.kyoto.jp/shigoto/cmsfiles/contents/0000006/6048/gijiyoushi.pdf>

【参考】

**【環境破壊企業 日立造船】地球を壊す
パーム油火力発電所の建設をやめろ！**



私たちの森を奪わないで

日立造船のパーム油火力発電所によって
東京ドーム6,383個分の熱帯雨林が失われます

発信者：森本 隆 宛先：谷所 敬（日立造船株式会社代表取締役兼
会長）、1人の別の宛先

11,610人が賛同しました。もう少しで15,000人に到達します！

菊地 均也さんが2時間前
賛同しました

日野 麻美さんが4時間前
賛同しました

あと3,387名の賛同者で目標に達します！このキャ

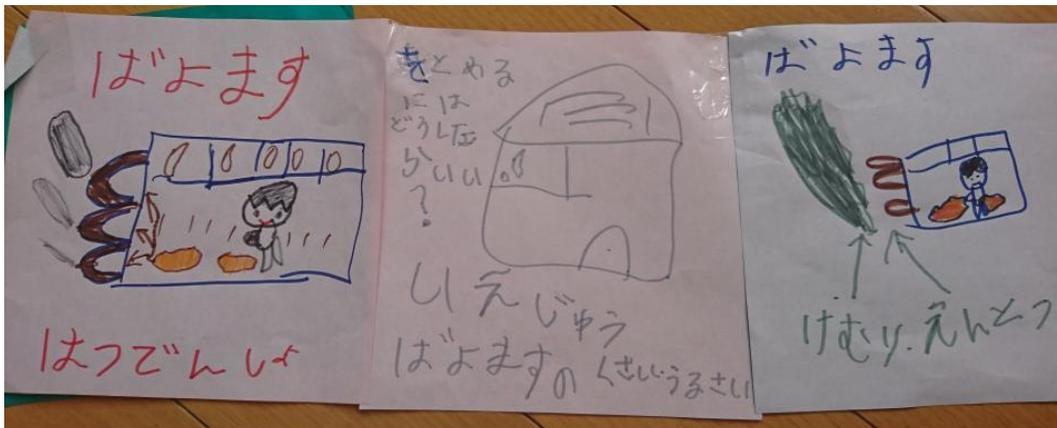
「11,610人の反対署名」

<http://chng.it/wk6GjffQJ2>

<https://maizuru-palm.org/>

舞鶴市のパーム油発電所建設予定地近くで会社を営む舞鶴市民の方を中心に立ち上げた署名サイトには、すでに1万人を超える方が署名をしています。SNSでもたくさんの方が問題をシェアしています。

「いえじゅうばよますのくさい うるさい」 <https://maizuru-palm.org/?cat=8>



この可愛い絵ですが何の絵だかわかりますか？福知山市土師新町に住んでいる5歳の坊やの書いた絵です。坊やの家の直ぐ近くに三恵観光グループがパーム油発電所（バイオマス発電所）を建設しました。その日から福知山市土師新町の住民の苦しみが始まったのです。365日発電所からでる悪臭と騒音に苦しむ住民達、坊やの家族も苦しんでいます。この絵は子供に書かせたわけではなく、自発的に書いてお母さんの元に持ってきました。5さいの坊やがお母さんのため、家族の為に一生懸命にバイオマス発電を止める為に考えているのです。

「パーム油生産のためのアブラヤシ農園 (RSPO 認証) で発見したオランウータンの死体」

この写真は、ウータン・森と生活を考える会の石崎がインドネシアのアブラヤシ農園で2014年に発見したオランウータンの殺死体です。この農園は、数年後に親会社が変わり、RSPO 認証を取得しました。RSPO 認証を取っていても、以前に熱帯林や泥炭地を破壊した可能性があるのです。

